

# シネコヤ+ワークショップ第3回が開催されました

## シネコヤ+ワークショップ 第4回

7月19日 土曜日 開始13:30~15:30

場所：藤沢青少年会館3階 第一談話室

定員：20名（要申込・抽選）

申込締切 7月13日（日）

※抽選結果は7月15日（火）までに当選者に通知致します

講師：元テレビ朝日カメラマン  
吉原 修

テーマ

「2時間であなたも名カメラマンに !!」

《お申し込み方法》

下記メールアドレス、電話、FAXにて各回随時受け付けます。名前（団体の場合は所属及び代表者名）、ご連絡先を明記の上ご連絡下さい。

TEL/FAX 0466-62-2288

メール cinekoya@scmn.info

URL http://scmn.info

主催 NPO法人湘南市民メディアネットワーク  
共催 財団法人藤沢市青少年協会

テレビ朝日プロデューサー 小林和男氏による  
「テレビの映像表現」  
（テレビを10倍楽しく読み解く事ができる識を習得！）講座が開催されました

### 略歴

1972年テレビ朝日入社  
モーニングショー、ニュースステーション、ザ・スクープなどの報道情報生番組で主にドキュメンタリー番組を制作。  
「皇室特番」、「人生の楽園」などプロデューサー。ワイドショー制作部担当部長  
現在、「はい！テレビ朝日です」プロデューサー。



シネコヤ+ワークショップも今回で第3回を迎えました。  
今回の講師である小林氏はテレビ局のプロデューサーという事もあり、映像などの並べ方によって、見ている人にどのような印象を与えるか、また各テレビ局によるちがいが、番組制作に携わっている人にしかわからない番組構成や、映像の作り方を話していただきました。

scmn

Shonan Video Festival Newspapers

湘南映像祭新聞

Shonan Citizen Media Network

発行者  
NPO法人  
湘南市民メディアネットワーク  
神奈川県藤沢市藤沢110-4  
TEL/FAX 0466-62-2288  
E-mail info@scmn.info

http://scmn.info

協力

江の島ボウリングセンター  
TEL 0466-23-6114  
藤沢市片瀬海岸2-15-22  
http://a-bowl.jp/

## 大学と市民を繋ぐ映像祭

松本 恭幸（まつもと やすゆき）

私の勤務する東京の練馬区にある武蔵大学では、2006年度からその前年度に開催された「湘南映像祭」に触発され、「白雉市民映像祭」という映像祭を教員と学生が協力して開催している。

この「白雉市民映像祭」は、武蔵大学社会学部メディア社会学科の学生達が、大学で学んだことを社会に活かすための実践活動の場として、また映像制作を通して学校、地域、市民の連携を考えるために企画した。第1回目となる2006年度は、武蔵大学の学園祭（白雉祭）に合わせて11月3、4、5日に開催された。また第2回目となる2007年度は、武蔵大学のオープンキャンパスに合わせて8月11日、12日に開催された。



街中で撮影に取り組む武蔵の学生達

「白雉市民映像祭」では、全国各地の学校教育の現場や地域社会で映像制作に携わる様々な作り手を支援し、相互のネットワーク構築と新たな作り手となる人達に向けたメッセージの伝達を通して、映像制作活動の輪を広げていくことを目的に、上映会、コンテスト、ワークショップ、市民メディアの活動紹介を中心とした講演、シンポジウム等を企画してきた。



松本恭幸（まつもと やすゆき）

出版編集、衛星放送やインターネットの新規事業開発、コンテンツ企画開発の仕事を経て、現在、武蔵大学社会学部メディア社会学科准教授。他に日本インターネット新聞社「JanJan」編集委員、放送批評懇談会「GALAC」編集委員。

ワークショップ制作作品の上映会、コンテスト応募作品の発表会、審査と表彰式等を行っている。  
また日本ビクター（JVC）にスポンサーになっていただき、VHSの誕生とともに構想されてスタートした世界最大のアマチュア映像祭「東京ビデオフェスティバル（TVE）」に、これまで世界中から集まった各時代の作品の中から、代表的なものを選んで上映するとともに、合わせてTVE事務局スタッフ、これまでの市民ビデオを振り返って語る企画「市民ビデオの30年史を語る上映会」のような企画を開催した。

さらに映像教育に携わる学校教員を主な対象にした「映像教育を考えるシンポジウム：学校教育の現場における映像教育実践」や、練馬区と武蔵大学が共同で行う練馬区NPO活動支援センター事業として、全国各地の市民メディア関係者をスピーカーに招き、各地域のNPO等で様々な市民活動に取り組む人達を主な対象に、市民メディアとNPOとの連携や、映像を活用するためのノウハウを提供することを旨とした「映像がつなぐ地域社会」、映像による地域づくり活動と「NPO」等の講演会、全国の主要な学生と市民映像制作団体による招待作品上映会と活動紹介、「市民映像を考えるシンポジウム：地域社会の中での市民による映像を通して情報発信」といった企画も開催した。

市民映像制作団体による作品上映会には、湘南映像祭の森康祐代表にも来ていただき、過去の優秀作品の上映会を開催した。  
今年度は「白雉市民映像祭」の開催は秋以降（おそらく来年春頃）になる見通しだが、今後とも「湘南映像祭」と協力して学生や市民の映像制作を盛り上げていけたらと思う。

一人一人にこだわって 学習のコーチを40年

一ひらめく頭に変える一

自著

『お母さんは勉強  
を教えないで』

草思社

書店でお取り寄せできます

小中高 個人教授 補習・受験 数英国

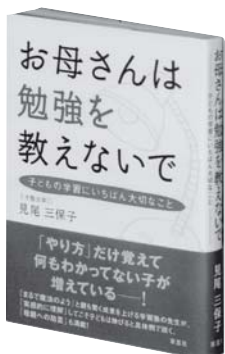
IQ EQ  
知 と 心

江ノ電 江ノ島駅 2分

ミオ塾

ミオジューク

☎0466-26-3019





## 『道 2』

財団法人川喜多記念映画文化財団  
佐藤 京子（さと） きょうこ

「道」がラストシーンの映画  
前回は主にタイトルに「道」路のある映画のお話でしたが、今回は道が印象的なラストシーンになっている映画を探してみよう。

まずは、チャールズ・チャップリンの1936年製作の「モダンタイムス」のラストシーンです。「モダンタイムス」は、チャップリン演じる工員がナットでボルトを締め続け、機械の早さに追いつかず、最後はベルトコンベアーに挟まれてまでボルトを絞め続けたり、自動給食器の回転トウモロコシに顔を殴られたり、一種の機械文明批判が笑いのなかで繰り広げられます。同時にチャップリン演じるいい加減な男の、少女に見せる優しさが心を温かくする映画でした。ラストシーンはボレット・ゴダード演じる少女とチャップリンが、長いまっすぐな道をゆつくり歩いて行きます。道の先には影になった山並が続いています。最後は二人の後ろ姿が小さくシルエットになって終わります。



Fileモダンタイムス

機械文明を風刺したテーマをもつ映画に、フランスのルネ・クレール監督が1931年に製作した「自由を我等に」があります。「モダンタイムス」より

も先に製作された映画です。テーマは似ていても、作風は全く違います。見比べてみるのを楽しみます。「自由を我等に」のラストシーンも道が印象的に使われて終わります。こちらは男同士が、金と恋を失い、でも自由になって野道を楽しそうに去っていきます。



File自由を我等に

キヤロル・リードが1949年に発表した、イギリス映画の名作「第三の男」ラストシーンは多くの人に語られてきたシーンです。「第三の男」は第二次世界大戦後の混乱を背景としたミステリー・ロマンで、ストーリー、俳優、撮影、音楽を監督が見事に調和させた完成された作品です。

ラスト、カメラは葉の落ちた並木路を縦にとらえ、その奥から女が歩いてきます。まだ小さくてやつと誰かわかる程度です。手前には壊れた荷車に寄り掛かった男。男は歩いて来る女に視線を向けています。観客はそれまでの話から、女を待っていることがわかります。カメラは据えられたまま、歩く女が近付きだんだん大きくなってきます。女は毅然とした面持ちで正面を向いたまま歩き続け、男の存在を視野に入れます。事なく通り過ぎ、画面から消えていきます。緊張感に満ちた美しい映像です。



File第三の男

1953年にジョージ・スティーヴンスが監督した西部劇の「シエナ」では、悪人を倒したシエナが少年の「シエナ！カムバック」と呼ぶ声を背に、遙かなる山並に向かって馬で去っていきます。シエナが去って行く広野に続くのはかうじて道と言えるものでしょうか。

ラストシーンには、映画の重要なテーマが隠されていたりします。「シエナ」で少年がどんなに必死で呼ぼうが、シエナは去らなければならなかった。それはなぜなのか考えると、単にガンマンが活躍する西部劇との違いが見えてきます。

「第三の男」で女はなぜ待っている男の存在を、完全なまでに無視したまま歩き続けたのか。チャップリンが歩いていくまっすぐな道は、後ろ姿は何を語っていたのか。そして自由になった男たちの歩む道は、自由そのものの象徴だったのか。

答えは観た人ひとり一人がそれぞれに出すものでしょう。良い作品には、作り手の思いを超えた正解があったりします。それが名作です。

ここで紹介した映画はどれも皆さんがご覧になられたことがないだろう、古い作品です。皆さんで、新しい映画の、道のラストシーンを探してみてください。良い「道」のラストシーンのある映画は絶対に名作です。

## 第2回鎌倉映像フェスティバル



テーマは「道」 10分以内の映像作品を募集します

募集期間：2008年7月1日～9月5日

審査・講評：大林宣彦監督

最優秀賞賞金20万円 優秀賞賞金10万円他

入選作品上映・授賞式：10月24日（金）鎌倉生涯学習センターにて

主催：（財）川喜多記念映画文化財団 共催：湘南映像祭

後援：鎌倉市 JCN鎌倉 プレアデス国際短編映画祭

問合せは（財）川喜多記念映画文化財団 Tel 03-3265-3281 info@kawakita-film.or.jp まで  
（詳細は、ウェブサイトをご覧ください www.kawakita-film.or.jp）

## 第4回湘南映像祭 作品募集中

作品募集期間

2008年4月1日～2008年8月20日（8月20日必着）

作品応募資格

作品応募は無料です。

個人・団体、プロとアマおよび国籍・年齢は問いません。

応募作品の条件

作品の長さは15分以内です。

DVD・ミニDVテープに記録してご出品ください

詳細・申し込み用紙はこちらのサイトから

<http://scmn.info>

授賞式 2008年9月21日 藤沢産業センター7・8 10:00～17:00

主催 NPO法人 湘南市民メディアネットワーク

協力 東京ビデオフェスティバル事務局・（財）川喜多記念映画文化財団

●この事業は、かながわボランティア活動推進基金21  
ボランティア活動補助金の助成を受けております。

Ulead VideoStudio 12  
新発売

アカデミック・パッケージ版  
希望小売価格 8,190円

コーレル株式会社 [Corel Japan, Ltd.]

<http://www.corel.jp>

**COREL**

